

真澄 (ますみ)

富士川第二小中一貫校 松野学園

中学部 学校だより

目指す子供像「夢を語れる子」

学校教育目標「自ら学び ともにみがき合う」

重点目標「やってみよう！」

令和5年12月22日 No.5

温かいご支援に深く感謝申し上げます

令和5年も残すところあと僅かになりました。大人になると月日が駆け足で過ぎていくように錯覚しますが、子供たちにとっては、それぞれが確かな成長を遂げたかけがえのない1年でした。

一人一人の成長のどの場面にも、仲間と支え合い、時には切磋琢磨し合う子供たちの素敵な姿がありました。もちろんそうした成長が見られるのは、保護者の皆様、地域の皆様から温かいご支援をいただいているからに他なりません。深く感謝申し上げます。加えて、松野の宝である子供たちの成長を皆様と共に喜び合えたことも幸せでした。

子供たちの成長や活躍について後期の活動を中心に振り返ってみたいと思います。

一人一人の力が集まって大きな花が咲きました

スポーツの部

10月17日（火）快晴の空の下、松翔祭スポーツの部が開催されました。今年も、8色の縦割りチームに分かれ、5年生から9年生までが、運動場を全力で駆け巡りました。縦割り種目、学年種目だけでなく、子供たち一人一人が、任された係で、スポーツの部を支えていました。まさに、全員でつくるスポーツの部でした。



スポーツの部は1日で終わりますが、当日を迎えるまでに、長い時間をかけて着々と準備も行われていました。実際に準備が始まったのは、夏休み前からでした。

9年生が中心になり、種目説明等を行ってきました。種目のルールも、誰もが力を発揮できるようにするために何回も改善していました。児童生徒会を中心に準備したスローガン「We-Do-」が記された大型の横断幕にも子供たち一人一人の意気込みが書き込まれ、一体感が高まりました。これは、8色のグループごとに日を決め、昼休みの時間を活用して一人一人が書き込みを行ってようやく完成した子供たち全員の渾身の力作です。横断幕は、9年生の

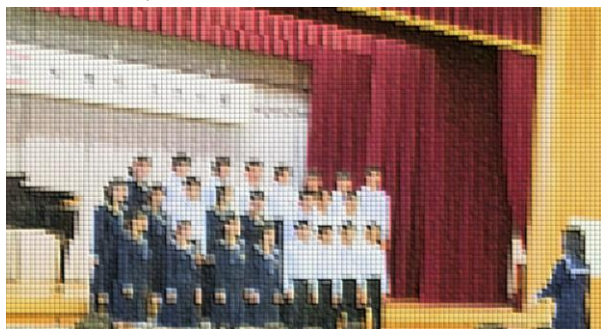


教室のある廊下に掲示され、今でもその時の熱い思いや一体感を思い出すことができます。

文化の部

スポーツの部から約2週間という短い間隔をあけての、文化の部の開催でした。

感染症流行の兆しから、完全な形での開催が危ぶまれる時もありましたが、保護者の皆様にご協力をいただき、無事、開催することができました。ありがとうございました。



そんな中で子供たちの頑張りは目を見張るものがありました。スポーツの部と同時進行の練習や準備は、時間的に厳しいものだったはずですが、見事に両立させていました。練習し始めの頃、子供たちの中に「当日に間に合うのか」と不安が広がったこともあったと思います。しかし、子供たちは諦めませんでした。歌詞に込められた

願いを丹念に読み解き、共有し、短い時間を有効に活用しながら、歌声をすり合わせることを仲間と支え合いながら進めていました。教室で、廊下で、音楽室で、また、パート別に分かれて、全体で、練習を一心に繰り返す子供たちの姿に心が動きました。そして子供たちに同じ思いで寄り添う本校職員の姿にも胸が熱くなりました。また、前日までのタイトな日程の中でも、初等部の子供たちの期待に応え、授業での練習の場や体育館でのリハーサルを公開しました。きっと初等部の子供たちの中に、中学生への大きな憧れが芽生えたことと思います。

私見ですが、前日の歌声も素晴らしかったのですが、当日の歌声は更に素晴らしかったと感じました。その理由は、子供たちの「見に来て下さった皆さんへ歌の心を届けたい」という気持ちが強かったからだと思います。

今回の松翔祭で、本校の底力を感じるものがたくさんありました。その一つが、今までの伝統を引き継ぎ、立派に責任を果たした9年生の姿でした。中学生はもちろん、小学生にも最上級生である9年生の素晴らしさが伝わっていました。加えて7・8年生は、今後全力で臨まなければ、追いつき乗り越えることのできない背中を9年生に感じたのではないのでしょうか。「9年生のようになりたい」という言葉

「でもなかなか追いつくのは難しい」という心の声が聞こえてくるようです。きっと、来年度、特に今の8年生は、9年生の雄姿を思い浮かべ、それに負けないよう頑張ってくれると思います。今の9年生が、昨年度の一貫校初代9年生の背中を追いかけながら進んできたように、本校に脈々とつながる



伝統として未来まで引き継がれていくことと思います。

末筆になりますが、来年もどうぞ本校の活動に変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。新しい年が皆様にとって幸多き年でありますように。